

平成 28 年度 第 2 回北関東救急看護研究会

発表概要

テーマ:救急外来における STEMI 患者の来院から PCI 出棟までの時間に関連した要因分析

話題提供者

所属：済生会宇都宮病院

氏名：阿相 忠輔

【はじめに】

STEMI の治療として Door to Balloon Time を 90 分以内にするのが推奨されている。A 病院では、ER の滞在時間を 30 分以内に達成できるよう取り組んでいるが、時間を超過している現状があり、来院から PCI 出棟までの時間に影響を及ぼす要因を分析した。

【研究目的】

STEMI と診断された患者の来院から PCI 出棟までの時間に影響を及ぼす要因を明らかにする。

【研究方法】

1.期間 2014 年 4 月～2015 年 3 月

2.対象 STEMI と診断され、ER から PCI へ出棟した患者

3.分析方法

電子カルテの情報から ER から PCI 出棟までに影響を及ぼしていると考えられる要因

1)来院方法(直接来院・救急車) 2)受診時間帯(時間内・時間外) 3)初期診療担当科(循環器内科・他科<主に救急科>)を抽出し、達成群と未達成群に分け、比較した。

【結果】

対象患者は 100 名だった。達成群は 47 名、未達成群は 53 名だった。

1)来院方法 達成群 救急車 52% 直接来院 15%
未達成群 救急車 48% 直接来院 85%

2)受診時間帯 達成群 時間内 69% 時間外 35%
未達成群 時間内 31% 時間外 65%

3)初期診療担当科 達成群 循環器内科 71% 他科 43%
未達成群 循環器内科 29% 他科 57%

【考察】

結果から、達成群の中で直接来院 15%、時間外 35%と低かった。要因の一つは、直接来院患者は時間外の来院が多く、時間外の診療体制の影響が考えられる。A 病院では、心電図で STEMI と診断後、院外にいる循環器医師にコンサルトし PCI が決定する。その後、カテーテル班を招集するため、滞在時間が長くなったと考える。2 つ目の要因は、トリアージナースの主訴選定の影響が考えられる。直接来院の場合、トリアージナースが主訴選定を行い、心電図を実施する。胸痛以外の主訴を心原性と判断することが、時間に影響を及ぼしていたと考えた。今回の研究では、心電図実施までの詳細な時間は追えなかったが、更に詳細なデータを収集し、比較検討していきたいと考える。今後、トリアージ能力を高める教育や、他職種との連携・体制の整備を実施し、ER 滞在時間の短縮に取り組みたいと考える。

※本研究は、第 18 回日本救急看護学会学術集会にて発表した。